

もみの木フォーラムⅤ アンケートの集計（一部修正）

1. フォーラムの満足度

大変良い	9	普通	3
良い	3	悪い	0

2. 本日のフォーラムの感想

当事者（Aさん）の話より、正直な感情を聞けてよかった。
Aさんはちゃんとこの家族の「調整役（祖母と母の間や家族のトラブルを誰よりもプラスにならないと感じた話から）」をして、それが機能したおかげで、どうにか家族が生きてこられたのだと思いました。また、生きるため、乗り越えるために必要な事をちゃんと受けとる「力」を持っている人だと思いました。また「人を信じる」「信じられない」、ここが大きな分かれ道のようにも感じました。

Aさんが語ってくださったことで、理解の幅がぐっと広がりました。お一人お一人のご経験は異なるし、その出来事や現実の受け止め方にも異なります。どこまでもご本人の思いや願いを大切にしていかなければと思いました。

Aさんの人生の話を聞いた事は良かったです。恵まれているとしたら、それはAさんがしっかりアンテナを張って選択してきたからだと思いました。

ケアラーの方の本音を伺うことができてありがたかったです。

勉強になりました。

他人から見れば大変な状況にあるにもかかわらず、素直に事態を受け止め、弁護士になられたAさんのご両親から愛情がしっかり支えられていたのではないかと思います。ご自身の状況を不幸と捉えない姿勢は素晴らしいと思いました。

ネガティブにならず、生きる良い話だったと思います。

支援に繋がることへの重要性や、子どもたちは社会の仕組みによって守られる存在であってほしいと改めて考えることができました。

Aさんのお話の中で日本の福祉の良い点を教えていただいて、少し福祉の考え方が変わりました。

Aさんが自己の半生を語ってくださり、大変有意義なフォーラムになりました。

ヤングケアラーを可哀想とくるのではなく、広い視点で考える必要性を感じた。

危機的状況に主治医の存在や生活保護や奨学金、任意入院など医療や福祉士の制度があることが大切だと思いました。公的機関の相談する前に気軽に相談できる人や相談する機関があることが大切だと思いました。悩みや思いを伝える時、守秘義務の大切さや否定も肯定もしないことが大切だと思いました。大変参考になりありがとうございました。

「生活保護を受け受けてくれてありがとう」というAさんの言葉が心に残りました。また、奨学金を始め、今ある制度にたまたま気づいた人だけが救われるのではなく、どうすれば気づいてもらいやすくなるかというお声もありました。そこで思うのですが、生活保護を始め、制度を使う事は「権利」であることを教育の現場でもっと子どもたちに伝えることはできないでしょうか。なんとなくですが、日本人は「権利」意識がなさすぎるような気がします。教育が大事だと思います。

パネリストのお話が掴みにくかった。質問ができなかったのですが、教育環境、受けてきた教育（祖母、父母、ご本人の教育環境について、教育が果たせる役割）について聞いてみたかった。

ヤングケアラーと聞くと、親の役割を全て担い、家の事しかしていないというイメージでしたが、当事者の実体験を聞くことができ、ヤングケアラーのイメージがより具体的になり、様々な理由の方がいるんだと知ることができました。支援する立場になるとするならば、情報にアクセスしやすい環境を作ることが重要だと感じました。

3. フォーラムは今後の活動の参考になりましたか

はい	6	いいえ	0
----	---	-----	---

人それぞれ違う(当たり前ですが)。「かわいそう」「救う人」というより、しんどい環境の中で深い思い、信念力を持つ人を見させていただきました。

ヤングケアラーと気づいていない人にどうアプローチして良いか、模索中です。ヒントをもらった気がしました。

福祉サービスを理解され受け入れられたことが良かったのでは。ご本人の前向きな姿勢には運も味方になってくれるのだなぁと思いました。

なかなか安心して話すことが難しい。

ヤングケアラーについての勉強で利用したい。

ヤングケアラーと一括りにしても、その背景や環境は人によって異なるので、その人に適した支援を継続して行うことの重要性について参考になりました。

認知症介護グループホームのケアマネジャーの仕事をしているので、家族との関わりに参考になりました。足森公民館民のみんなの食堂の上に関わっているので、役立てたいと思います。

生活の根幹を支える「生活保護制度」がヤングケアラ問題の解決にも大事であることがよく伝わってくるお話でした。野中先生が最後に紹介された京都大学の3曲教授の言葉通り、「かわいそう」とかの寄り添いよりは、まず、問題を解決できる制度を貯めらいなく使う、使えるようにする事は大前提だと思いました。

4. フォーラム運営に関するご意見気になる、改善点がありましたら記入ください。

「健康な家庭」「普通ならば」等の言葉の使い方が気になりました。ヤングケアラーのいる家庭は健全ではないのか？普通ではないのか？きっとご本人たちはこの環境の中でしか生きていけないのであれば、それが「普通」だったでしょうに…と思った次第です。本当に一人ひとりの「意識」「自覚」が必要ですねとつぶやいてみます。

このような有意義なフォーラムにも多くの方に参加していただきたいです。今後は私も PR のお手伝いをいたします。

貴重な体験を聞かせていただきよかったです。

5. 「ヤングケアラー」について思うところ

大人がどうあるべきかと考えますが、その状況を生み出してしまう背景には、親たちの ACE が存在している事は容易に想像でき、社会全体がもっと寛容になったり、多様性を認めたりすることができるようになって行かなきゃだめだなあと改めて確認できました。自分自身がどう立っていくか背筋が伸びました。ありがとうございました。

ヤングケアラーを多角的に見て評価することが大切だと思います。ヤングケアラーそれぞれご自身が自己の現状と将来をどのように考えているか。知りたいです。

見つけることが難しいと思います。どのようにアンテナを貼れば良いのか分かりません。

ヤングケアラーと言われる方々は逆境に負けない力を持っておられると思います。支援を必要とされる方に正しい情報を送れることで、一人ひとりのヤングケアラーが将来笑顔であってほしいと思う。

ヤングケアラーのイメージが暗いものだけではないと感じました。

気づくことが大切だと思います。

まだヤングケアラーの現状について知らないことが多いため、どのような支援や取り組みがヤングケアラーの方々の助けになるのか、これからさらに学んでいきたいと思いました。また、自身がヤングケアラーであると認識をしていなかったり、周囲が気づけなかったりする点が、その人らしく生きるためには問題だと感じました。

人に頼っていいんだよと教えるにはどうしたらいいのかなと思います。

今回、A さんのお話を伺い、ヤングケアラーの問題は単に「子どもがお手伝いをしている」ということではなく、家族を支えるために自分自身の時間や夢、そして子どもらしく過ごす機会を犠牲にしている現実があることを改めて考えさせられました。介護の現場で働いていると、高齢者本人への支援に目が向きがちですが、その陰で支えている家族にもさまざまな負担や悩みがあります。特に子どもが担い手になっている場合、周囲が気付かないまま頑張り続けていることも少なくないのだと思いました。また、「助けて」と言えない人や、自分が困っていることに気付いていない人もいることがわかりました。高齢者支援や地域活動にも共通することであり、本人からの発信を待つだけでなく、周囲が気づき、声をかけることの大切さを感じました。私は過疎地域で暮らしながら、介護、防災、地域活動などに関わっていますが、地域のつながりが薄くなる中で、誰かが孤立していても見えにくくなっています。しかし一方で、地域にはまだまだ人を支える力があると思っています。今回の学びを通じて、支援とは制度だけではなく、人と人のつながりの中で生まれるものだ改めて感じました。ヤングケアラーの問題も、子どもだけの問題ではなく、地域全体で考えていく課題だと思います。「困ったときはお互いさま」と言える地域づくりを目指し、介護の仕事や地域活動の中で、一人ひとりの声に耳を傾けていきたいと思っています。